あきる野市教育目標「人が育ち 人が輝く あきる野の教育」（スローガン：大人が手本・**子供が主役**のあきる野市）

開校１５０周年（明治６年創立）

ハートフル多西

令和５年 ６月３０日（金）
あきる野市立多西小学校
校 長 小 原 太 一

違いを認める

私と小鳥と鈴と
金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

先日の全校朝会で子どもたちに、この有名な金子みすゞさんの詩を紹介し、お互いの違いを認め合うことが相手を思いやる心につながるということを伝えました。６月は「ふれあい月間」（いじめ防止強化月間）でしたので、多西小学校では様々な場面で「相手を思いやる心」の育成を図ってきました。

この詩が作られたのは大正時代です。いつの時代も「違いを認め合う」ことの大切さが説かれていたという事実に驚きと感銘を受けます。この詩の面白さは、「私」が出てくる位置です。タイトルは「私」は一番先に出てきます。逆に詩の終わりには一番後になっています。「私」が必ず中心ではないという作者の意思を感じます。また、最後に「みんな」という言葉を使っていますが、「鈴」という生き物でない『物』も「みんな」に含めることで多様性の幅を広げています。

学校には３８０人以上の子どもたちが一緒に生活をしています。勉強が得意な子、運動が得意な子、絵を描くことが得意な子、本を読むことが大好きな子がいる一方で、苦手な子、好きでない子もたくさんいます。また、おおらかな子、繊細な子、活発な子、静かな子と性格も一人一人違います。社会性が発達途上の子どもたちは、様々な場面でこの違いからぶつかり合い、悩み、葛藤します。逆の見方をすれば、互いの違いがあるからこそ、社会性を伸ばすことができていると言えます。学校には本当に様々な子どもがいます。簡単には理解し合えないこともあります。しかし、だからこそ一人一人が成長できているということを知ることで、お互いを大切にしようという気持ちを育てていきたいと思います。「みんなちがって、みんないい」を合言葉にこれからも、ハートフルな子どもたちの心を育てていきます。

ふれあい月間（いじめ防止強化月間）の取組

６月の１ヶ月間は『ふれあい月間』として、学校全体としていじめ防止のための取り組みを行ってきました。７月１１日（火）には、「いじめをなくそう子ども会議」が予定されています。その会議に向けて、各学級では道徳の時間にいじめに関わる題材に取り組み、そこで学習したことを元に、各学級でスローガンを考えました。教員が一方的に、子どもたちに「いじめをしてはいけない」と伝えるのではなく、子どもたち自身がいじめを自分事として捉え、自分たちで「いじめはしてはいけない」のだと、考えていけるよう取り組んでいます。

また、各学級での子供たちの思いや悩んでいることを各担任が把握していけるよう、「こころのアンケート」を実施しました。先生に相談したいことがある子や、こちらから話を聞いた方がよいと判断した子については個別で話を聞き、問題の解決に向けて、対応をしています。

一人一人、個性や性格、考え方が違う人たちが関わり合う中で、いじめはどの学級でも、どの子にも起こりうることであります。いじめを起こさないための取り組みとして、道徳の時間や日頃の学級指導を行ったり、ハートフルデーなどでの挨拶運動などを行ったりしています。それでも、いじめが起きてしまったときに、どう解決していくか、周りのたちはどう関わっていくべきなのか、改めてこの『ふれあい月間』を通して考えました。これからも、いじめのない学校を目指していくために、学校全体として、教員全員で連携を図りながら生活指導に取り組んでまいります。ぜひ、ご家庭でもお子様が加害者にならないための話をしていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

生活指導主任　渕上　進一郎